
第 2 7 2 号

2014年11月1日

日本気象学会

関西支部 ニ ュ ー ス

- 関西支部第31期役員を選出
- 2014年度 関西支部理事会報告
- 2014年度 関西支部総会および年会報告
- 関西支部 第36回 夏季大学報告
- 2014年度第1回例会（近畿地区）、
第2回例会（四国地区）、第3回例会
（中国地区）について
- メールアドレス登録のお願い
- 住所変更届のお願い
- （公社）日本気象学会入会案内

〒 540-0008

大阪市中央区大手前4丁目 1-76

大阪合同庁舎第4号館

大阪管区気象台内

日本気象学会関西支部

振替 00980-5-18318

TEL (06) 6949-6143

FAX (06) 6944-2121

ホームページ：

<http://www.msj-kansai.jp/>

E-mail：

info@kansai.metsoc.or.jp

(注：メールアドレスはスパム対策のため全角で記していま
す。メール送信の際は半角で入力してください。)

○ 関西支部第31期役員を選出

日本気象学会関西支部は役員選挙を行い、第31期の役員（任期：2014年7月～2016年6月）を選定しました。また、4名の幹事が指名されました。

	(第31期役員)	(新役員の所属)
常任理事	石岡 圭一	京都大学
常任理事	大澤 輝夫	神戸大学
常任理事	上垣内 修	大阪管区気象台
常任理事	見定 吉信	大阪管区気象台
常任理事	杉本 悟史	大阪管区気象台
常任理事	難波 良彰	日本気象予報士会関西支部
常任理事	向川 均	京都大学
地区理事 (近畿)	井上 進	日本気象協会関西支社
地区理事 (近畿)	花房 真二	大阪管区気象台
地区理事 (中国)	岩田 徹	岡山大学
地区理事 (中国)	三角 幸夫	広島地方気象台
地区理事 (四国)	佐々 浩司	高知大学

地区理事（四国）	城尾 泰彦	高松地方気象台
会計監査	高木 次夫	日本気象協会関西支社
幹事	井口 敬雄	京都大学
幹事	関野 裕功	大阪管区気象台
幹事	藤原 義寿	大阪管区気象台
幹事	森永 裕幸	大阪管区気象台

○ 2014 年度関西支部理事会報告

6月28日11時から、「エル・おおさか」において、2014年度総会に先立ち理事会が開かれました。見定常任理事の司会で、午後からの総会を前に、各議題の報告及び審議が行われました。

まず、前項のとおり第31期役員が選出されたことが報告されました。次に2013年度の事業報告、収支決算報告、及び会計監査報告について、続いて2014年度事業計画案と予算案について各担当理事が説明しました。第36回夏季大学は「大気エアロゾル ～大気中を浮遊する微粒子～」のテーマで2014年8月23日（土）に京都市での開催とし、教育活動の拡充として、夏季大学への高校生の参加費を無料にすることが承認されました。



理事会の様子

また、支部会員の要望を受け、来年度から例会講演要旨集、年会講演予稿集の電子化を進めていくことが承認されました。

○ 2014 年度 関西支部総会および年会報告

<2014 年度気象学会関西支部総会> 2014.06.28 13:00～13:50

総会では、最初に総会成立審査を行い、関野幹事から、役員17名を含む個人会員の出席者20名、参加票により議決権の代理行使または意思表示を行なった個人会員が281名で、関西支部通常会員数503名の三分の一を超えており総会が成立する旨、報告がありました。続いて、第31期役員が紹介され、上垣内支部長が開会の挨拶を行いました。

その後、神戸大学の岩山氏を議長に選出して、議事が進められました。まず、2013年度の事業報告・収支決算報告・会計監査報告が行われました。続いて2014年度事業計画案・予算案が審議されました。関西支部理事会から、①2015年秋季大会にむけて当面は、常任理事・幹事が準備会として対応し、2015年度からは実行委員会を組織して運営すること、②教育活動の拡充については、中国、四国地区では主に高校生を対象とした気象講演会やサイエンスカフェを実施し、近畿地区では毎年開催している夏季大学に高校生の参加費を無料にして促進するほか、教育活動の有効な取組みの調査を進めること、

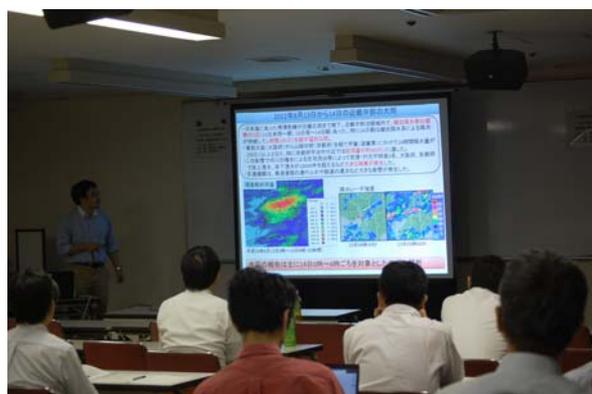
③近年会員各位から例会講演要旨集、年会講演予稿集の電子媒体化の要望及び会員相互の利便性を考慮して電子媒体化を図ること、などが提案されました。議題については、原案どおりすべて賛成多数で承認されました。

議長解任の後、総会は閉会となりました。

<2014年度気象学会関西支部年会> 2014.06.28 14:00~16:00

年会には総会出席者の他、研究発表に関係した大学生など 23 名の出席となりました。発表題数は昨年同様 5 題、講演時間 20 分を確保することができ聴講者にとって解りやすい年会となりました。

座長は、前半 3 題を石岡理事（京都大学）、後半 2 題を杉本理事（大阪管区気象台）が担当しました。衛星輝度温度差を用いた黄砂を含む雲システムの解析、2 基の隣接した 1.3GHz ウィンドプロファイラレーダーと気象レーダーのデータ比較による積乱雲の発達および降水の局地性に対する局地循環の影響に関する研究、台風に伴って高知県で発生する特異な地形性降水システム、後半の部では 2013 年台風第 18 号に伴う大雨による宇治川



年会の光景

の増水、気象庁非静力学モデル(JMANHM)を用いた 2012 年 8 月 13 日から 14 日に近畿中部で発生した線状降水帯による大雨の再現実験を大学、高校及び気象台から発表していただき最新の知見が得られたほか、活発な討論をとおして技術交流が図られたなど充実した年会となりました。

年会終了後は懇親会が行われ、関西支部の活動・会員数減少についての話などに花が咲きました。

○ 関西支部 第 36 回 夏季大学報告

2014 年 8 月 23 日（土）に、京都・丹波口駅近くの京都リサーチパークサイエンスホールで夏季大学を開催しました。今回のテーマは「大気エアロゾル～大気中を浮遊する微粒子～」で、以下のとおり 3 題の講義が行われました。



1 「大気エアロゾルが地球環境に与える役割を”化学する”」

高橋けんし氏（京都大学生存圏研究所）

2 「風が運んでくるエアロゾル：浮遊化学工場」

岩坂泰信氏（滋賀県立大学）

3 「PM2.5は増えているのか？心配なのか？」

菅田誠治氏（(独)国立環境研究所）

ここ数年、8月の最終土曜日の開催を続けておりましたが、去年は台風接近で開催が危ぶまれたということの反省を生かして今年は一週間早めの開催としました。また、やはりここ数年、京都駅前のキャンパスプラザ京都での開催を続けておりましたが、今年は残念ながら講義室が確保できず、京都リサーチパークでの開催になりました。京都駅前に比べてややアクセスが悪いことも影響したのか、昨年と比べると受講者が若干少なくなりましたが、それでも73名の参加がありました。

まず、高橋氏による「大気エアロゾルが地球環境に与える役割を”化学する”」の講義では、雲の「芯」としてのエアロゾルの役割およびエアロゾルそのものの生成過程や気候への影響に関して、理論的基礎から丁寧に解説していただきました。特に、液滴の形成の理解の際に必須となる熱力学の基礎についても分かりやすく説明していただき、参加者からも「基礎から学べて良かった」という声がありました。

第2講の岩坂氏による「風が運んでくるエアロゾル：浮遊化学工場」の講義では、黄砂研究の歴史および様々な観測手法、さらには最新のバイオエアロゾルの研究などについて、現場での体験談も含めて楽しく紹介していただきました。砂漠・雪中での観測風景やバイオエアロゾルなど、写真もふんだんに取り入れて下さっていて、具体的なイメージがつかみやすい講義でした。

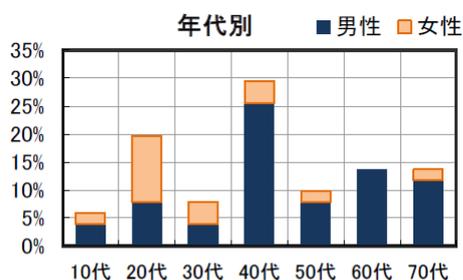


特に、バイオエアロゾルのお話については、参加者からとても興味深かったとの感想が多く寄せられました。

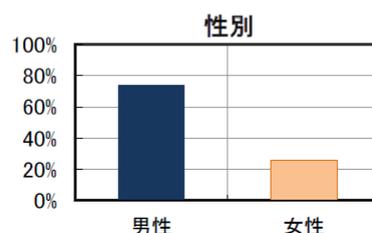
第3講の菅田氏の講義「PM2.5は増えているのか？心配なのか？」では、近年の一大関心事であるPM2.5について、大気汚染問題の歴史から最新の観測的知見まで詳しく説明していただき、PM2.5の健康リスクを冷静に判断するための基礎知識を得ることができました。大気汚染問題の歴史やそれに対する法の整備の流れなどについてはなかなかまとまった話を聞くことができないものだけに非常に貴重な機会であったと思います。また、日本における大気汚染観測およびそれを受けての数値予測の最新の状況を説明していただき、受講者からとても分かりやすかったと好評でした。

各講義とも、講師の皆様が分かりやすい説明を心がけて下さったこともあり、質疑応答も活発で、盛況のうちに終了することができました。

受講者に対して行ったアンケート結果は次のとおりです（回収率79%）。受講者は、女性が全体の26%と、昨年より女性の割合が増加したのが目立ちました。年代別で見ると、40代が29%で最も多いですが、それ以外は10代から70代まで幅広い世代の参加がありました。特に今回、気象学会の裾野を広げるための試行として高校生の参加を無料としたこともあり、3名の高校生が参加してくれました。気象学会員の割合は、昨年度よりはやや少なく、31%となりました。



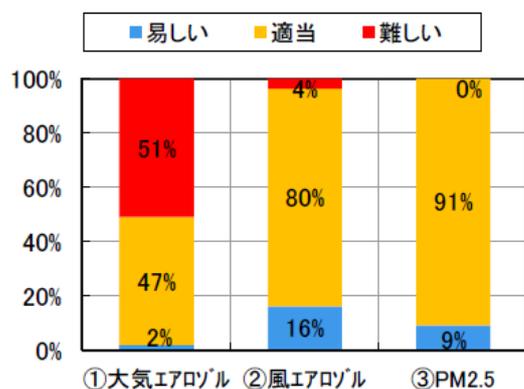
全体の59%が京都府・大阪府・兵庫県の3府県からの参加でした（昨年は60%）。今年も、東京都、神奈川県、広島県、岡山県、鳥取県、福井県など遠方からの参加もあり、近畿地方以外からの参加が全受講生の33%を占めました。また職業別で見ると、学生が23%と最多で、会社員と公務員がそれぞれ14%と11%、教員が20%と、年代とともに職業についても、幅広く参加いただけた結果となりました。



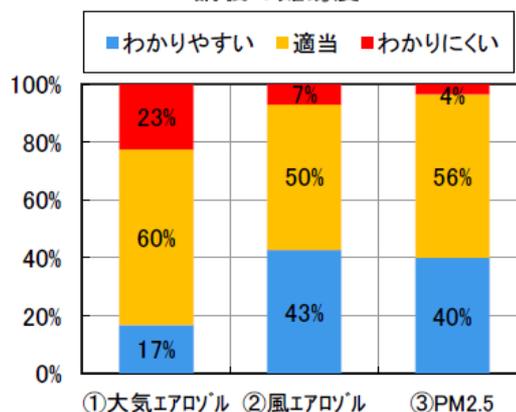
夏季大学を知ったきっかけは、昨年（27%）と同様に、予報士会などの電子メールが26%で最も多くなりました。他に、気象学会機関誌「天気」が15%、気象学会関西支部WebPageが19%、気象学会関西支部ニュースが5%と、それぞれの広報の成果が表れた結果となりました。今後も、複数の広報スタイルを維持していくことが重要と思われます。受講経験を見ると、今回初めて参加された方が全体の46%（昨年は47%）、2から4回目の参加者が41%（昨年は34%）で、新規参加の割合は昨年とほぼ同じでした。

参加した感想を尋ねると、講義数が「適当」と回答した受講生が9割以上と昨年同様に非常に多い結果となりました。また、講義時間が「適当」と回答した受講生が82%と昨年同様に多く、講義時間が「長い」と回答した割合は16%で、「短い」との回答は2%でした。講義の難易度に関しては、「適当」と「わかりやすい」を合わせると全ての講義で7割を上回りました。自由形式で書いてもらった講義の感想についても「こん

内容の難易度

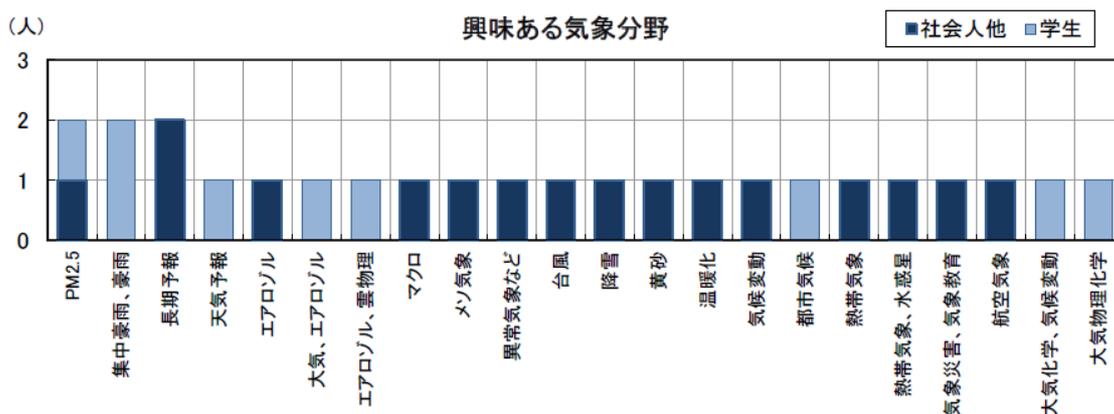


講義の難易度



なに充実した講義が受けられるなんて幸せ」など好意的な内容が多く、満足のいく夏季大学を実施できたと考えております。

今後取り上げてほしいテーマについては、「気象災害」を希望した割合が25%、「天気予報」「気候変動」がそれぞれ13%と12%で、基本的に昨年とほぼ同様の傾向でしたが、「気象災害」のテーマ希望が昨年より多かったのは、広島県での豪雨災害の直後であった影響もあると考えられます。「雲物理」を挙げた方が9%と例年より多かったのも同様の理由かと思われま



今回のアンケート結果をもとに、関西支部では、多くの皆さんに満足していただける夏季大学を企画していきたいと思っております。来年度も多数の皆様のご参加をお待ちしております。

○ 2014 年度第 1 回例会（近畿地区）、第 2 回例会（四国地区）、第 3 回例会（中国地区）について

- ・ 第 1 回例会（近畿地区）
 開催日：2014 年 12 月 17 日（水）
 会 場：大阪合同庁舎第 4 号館 16 階大会議室
 発表申込締切：11 月 17 日（月）
- ・ 第 2 回例会（四国地区）
 開催日：2014 年 12 月 19 日（水）13 時 30 分～2014 年 12 月 20 日（土）
 会 場：高知大学朝倉キャンパス 共通教育棟 3 号館 2 階 325 教室
 発表申込締切：11 月 19 日（水）
- ・ 第 3 回例会（中国地区）
 開催日：2015 年 1～2 月を予定
 会 場：未定

詳細については、関西支部 HP のお知らせを参照してください。多数の参加をお願いします。

○ (社)日本気象学会入会案内

ホームページ: <http://www.metsoc.jp/>

入会申込書(個人用)

公益社団法人 日本気象学会 FAX: 03-3216-4401

(二重線の枠内だけを記入しFax, 又は郵送願います。)

フリガナ		生年月日	(西暦) 年 月 日
姓 名		職業	
性 別	1. 男 2. 女		
刊行物などの送付先			
〒 -		(電話)	
現住所 (刊行物などの送付先と同じ場合は記入不要)			
〒 -		(電話)	
勤務先名/所属部署, 又は大学・学校名/在籍学部など (できるだけ詳細に) 及び所在地・電話番号			
〒 -		(電話)	
電子メール・アドレス			
会員区分 (希望する区分を○で囲んでください。学生/高年割引適用を希望する方はその文字を○で囲んでください。)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ A会員 (年会費 6,900円, 「天気 (毎月刊)」を無償配布) ・ B会員 (年会費12,600円, 「天気」と「気象集誌(JMSJ: 偶数月刊)」を無償配布) ・ C会員 (年会費 6,600円, 「気象集誌(JMSJ)」を無償配布) ・ (学生・高年割引適用) A会員 (年会費 4,200円, 「天気」を無償配布) ・ (学生・高年割引適用) B会員 (年会費 8,100円, 「天気」と「気象集誌(JMSJ)」を無償配布) ・ (学生・高年割引適用) C会員 (年会費 4,000円, 「気象集誌(JMSJ)」を無償配布) 			
注 ① 学生割引を希望される方は、在学証明書 (コピー可) などを提示願います。			
② 高年割引を希望される方は、4月1日に65歳以上であることが確認できる免許証 (コピー可) などを提示願います。			
③ 年の途中から入会される場合、会費は月割となります。 (参考: 月割の会費)			
刊行物の配布開始希望 年 月		(A会員: 580円/月, 学生・高年割引適用の場合 350円/月)	
天気	年 月号から	(B会員: 580円/月+950円/2月, 学生・高年 350円/月+650円/2月)	
気象集誌(JMSJ)	年 月号から	(C会員: 1,100円/2月, 学生・高年割引適用の場合 670円/2月)	
その他刊行物の定期購読の希望有無			
気象研究ノート	1. 希望する (号から)	2. 希望しない	
大会講演予稿集	1. 希望する (年 春/秋 から)	2. 希望しない	
来年からの会費納入方法 (希望の番号を○で囲んでください。)			
1. ゆうちょ銀行口座からの引落	注 ① 1. 2. 3. の場合は、手続きに必要な申込書類をお送りします。		
2. 銀行口座からの引落	ご記入がない場合は 4. とみなし、請求時に払込取扱票をお送りします。		
3. クレジットカード決済	② 1. 2. 3. の場合の引落手数料は学会が負担します。		
4. 郵便局からの振込 (払込)	③ 4. の場合、振込手数料は申込者負担とさせていただきます。		
通信欄 (その他)			

以下、学会事務担当者記入欄:

月割会費	天気: 冊 × 円 = 円	気象集誌: 冊 × 円 = 円	合計: 円
会員番号	所属支部	受付日	20 年 月 日
		承認日	20 年 月 日

2013.04.25